令和元年度第２回高知県市町村図書館等振興協議会　議事録

日時：令和元年１０月２５日（金）
１０：００～１２：００
場所：オーテピア高知図書館　研修室

【出席者】
（ 委 員 ）加藤 勉（委員長）、久寿 久美子（副委員長）、清原 泰治、吉冨 慎作、岡林 宏枝
村井 由岐子、久松 隆雄

（事務局）生涯学習課（課長 三觜 美香、課長補佐 田中健、チーフ 上村 剛史、主事 山下 祐貴）
県立図書館（館長 渡辺 憲弘、チーフ 尾形 千晶）

〇委員長
それでは、ご意見、ご質問等承りたいと思います。12 時までを予定しておりますので、忌憚のないご意見をお願いいたします。
まずは、各委員からの意見を賜りまして、それからフリーディスカッションのような形でいこうと考えております。委員から、よろしくお願いいたします。

〇委員
先に資料を送っていただきましてありがとうございました。多様な意見がある中で、私たちの意見を本当にうまくまとめてくださったと思っています。振興策の二つの柱を掲げていただいて、具体的によく分かりました。特に異論はなく、ぜひ進めていただきたいと思いますが、やはり２番目よりも１番目が大変だと容易に想像ができました。おそらく、人の心を変えていくことが難しいだろうが、この部分をどうやって進めていくかというところが大事だと思います。新しい知事がやるぞと言ってもらったら一番いいのですが。
ここには書かれていないことで、一つ申し上げたいと思ってきたことがあります。議事概要の３ページ目の委員長のご発言の中で、「図書館という言葉は建物を連想するが、実際に我々が考えるべきことは図書館活動という運動だと思っている」ということがおっしゃっていて、私はそれがムーブメントだと思いました。行政の中だけで意識が高まっていくのではなく、県民の中からそうした動きが起きていくような仕掛けをしていかないと、市町村行政のマインドまでは変わっていかないと思っています。
注目をこれからしていきたいと思っているのは「佐川町」です。一昨日かの新聞に出ていましたが、ワークショップを実施している記事が記載されていました。佐川町は、以前の町の総合計画を作成した際に、ワークショップを多く実施し、住民の意識、意見を大量に吸い上げる形で行っており、住民参加型の施策が非常に進んでいるということで注目しています。そういったプロセスを踏んできたことで、自分たちが佐川の町をどのようにに盛り上げるか、住民の人たちから動き始める「チーム佐川」という考え方で動いています。その中で、図書館もおそらく同じ方向、方法で実施されていると思います。そうした取り組み方を一つのモデルにしていき、これから図書館整備が行われるところに佐川町の手法を提示していく、勧めていくことは、意味があることだと思っています。
次年度については、資料のとおり実施していけたらいいと思いますが、もう一歩、先の部分でムーブメント、運動をどのようにして起こしていくかというところも考えていかなければならないと思います。

〇委員長
事務局からコメントとかご返答ございましたら。佐川町の事例ももちろん、ご承知だろうと思いますが、例えばワークショップの開催等に関して、ご意見がおありだろうと思いますので、コメントいただければ。

○事務局
　山重専門企画員が関わっていただいているようですが、やはり住民の方々を巻き込んで「私たちの図書館をつくるんだ」というところが、私としても大事なところだと思っております。どことは申し上げませんが、形だけの住民参加型のようにワークショップを開くというところが最近、全国を見ると出ているのではないかという危惧はしております。ワークショップを１、２回開くだけでは、なかなかムーブメントというところまではいかないと思うので、佐川町のように何回も会を重ねて、社会教育では「熟議」と言いますが、そういうことが必要だと思っています。

○事務局
　とある市町村の図書館に関する講演会が開催されたとき、そこに佐川町長がいらしていました。講演の内容をよくお聞きになられていて、こういうことを見たときに、やはり首長さんが図書館に関心を持ち、その有効性を考えていると随分違うのだろうなと拝見して感じたところでした。

○事務局
　佐川町はワークショップ等時間をかけてまめに実施しており、現在、検討委員会が進んでいますが、これまでかなり時間がかかっていることは聞いています。他のところでも地域の方を巻き込んだワークショップが実施されていますので、そのムーブメントをどのようにして起こすかというところで、一つの手段となりえますし、首長の関心という部分も大事なところだと思っています。

○委員長
　例えば、生涯学習課のどなたかがワークショップにオブザーバーというような形で参加し、どのようなことが実際行われているのか、生の声を聞くといった具体的な体験をすることも良いと思います。結果だけをデータとして持っているだけではなく、自分も参加するという関わり方の方が理解が得られやすいと思います。場合によっては、こちらから「こんな方向性が出せるんじゃないですか」というサジェスチョンができるかもしれませんし、学ぶところが多いかと思いますので、できる限り活動の中から情報を入手していただけるように、体験していただけたらという感想ではございます。おそらく、委員もそういうことを。

○委員
　そうです。形だけでないものが、おそらく佐川町は持っていると思います。

○委員
　その佐川町ですが、行政、議会、学校関係者が津野町に訪問されて、ディスカッションを行いましたが、かなり細かなところまで聞き出されました。「図書館としてどういう役目を果たしたいというものが地教委にあるのか。そして、それがどう関わっているか」、「他の住民や各関係機関との関係」というところを深く聞かれていました。そういったところも重視しながら、核となる方が共有していく中で、住民等の様々なところへ広めていく。その中で仕上げていくことが、佐川町のスタンスではないかと思いました。津野町の後は、梼原町に行くと言っていましたので、様々な図書館から情報を聞き出し、佐川町の地域実態に合わせた自分たちの図書館教育をどうするかをしっかり考えて、進められていると感じました。

○委員長
　それでは、委員、お願いいたします。佐川町がこのまま、一種のブランドになるかもしれません。新聞報道を見ても、そのような扱われ方になっています。その辺りもお願いいたします。

○委員
　委員が言われたように、高知の図書館の本質みたいなものを何か定義できたらいいなと思いながら聞いていました。最近、東京で書店や新聞社の方と話すことがありましたが、アマゾンで物を買う時代に図書券は何なのか、ネットで無料で情報が読める時代に新聞は何なのかということを考えたとき、彼らの中ではマジックワード的に「セレンティビティ」といった偶然の出会いのような、たまたま本屋に入った

ら自分の意図していなかったものに出会うというようなこと。その「セレンティビティ」という言葉に引っ張られて、本当に提供しないといけないものは何なのかという状態にある。だから、先ほど言われたように、「高知県の図書館というのはこういう方向だよ」というようなことが示せると、後々のいろいろな計画がそこへ紐づくのかなと全体に関してはそんなことを思っていました。

この資料については、まとめていただいて本当にありがたいなと思いながら、後は各市町村にこちらのメニューを見せて働きかけるよりも、ニーズに合わせたコンサルティングのような要素だと思っています。もちろん実施されると思うのですが、緊密に連携していただいて「うちの首長はこの辺を突いたら弱いぞ」というようなところをいっぱい突いていくとか、「特にこういう言い方をしてもらったら」というところをどのように、こじ開けるのかといった話になると思って聞いていました。

個別の市町村の取組については、集落活動センターのサービスではかなり大規模な取組もあるので、例えば「イベントづくりをどうする」、「職員のモチベーションを上げるにはどうしたらいいか」、そういうレベルも含め、ニーズがあればそれも対応できて、幅広く受け止められるような予算になったらいいなと思いました。

最後に、資料２は建物の話ですが県内全体で見ると様々な活動が行われていることが一目瞭然であり、他の図書館が頑張っているところが県のレベルでは見えるのですが、図書館の中にいる人にはあまり見えないのかなと思います。他の市町村で行われている事例等が、情報共有できるメディアのようなものがあったらいいと思うのですが、そういうものはあるのでしょうか。

〇事務局

高知県図書館協会とその協議会というものがあり、図書館協会は公共図書館だけではなく大学の図書館も含まれます。年に２回の会合を開いているので、そこで他の市町村の図書館の動き等も紹介しています。

それ以外でしたら、オーテピア高知図書館の県立図書館で公共図書館向けのブログを持っていまして、それで情報の発信を行っています。ただ、議題を提示し、意見を出し合うというところまでは至ってないため、そういったことができるようになればいいなとは思います。

〇委員

図書館だよりのようなものが市民向けに出ているのだとしたら、それをオーテピアに送ると全市町村の図書館に流れるだとか、労力をなるべく増やさない形で現場がどのようなことをしているか伝えることができたらと思いました。

〇委員長

ありがとうございます。具体的に突っ込んだ形になると、例えば資料２に挙げられている、現在、計画進行中のこの市町村で、具体的にどんなことをしているかを担当者を集めて、話し合いが持てる。そういうところまで踏み込むことが実質的な支援になるだろうという気はいたします。

ですから、今、非常に重要なご指摘があったと思うのですが、結局、こうした計画を出すということは、こちらが質問を受けたときにコンサルティングを受ける、つまり相談事を受けて、回答をある程度用意できるという力が要るということです。そのため、かなり勉強しないとそこまでいけないので、そちらの方も頑張っていただきたい。

それから、最初にご発言があった読書とは何だということ。これは、結論は出ないでしょうが、それこそ子どもに本を読ませる理由として「読んでみたら分かる、読書百遍と言うじゃないか」という形では難しいでしょう。そのため、効用だけを示すのではなく、本の成り立ちや人間はどのように本と接してきたか、そこから得られる情報を素直に考えて、読書が楽しいという実感を我々が持っているかということになります。図書館関係者というのは基本的に本・読書好きですから、そういうことを考えたこともないのでしょうが、今それを前提に話すことは難しいと思います。ですから、具体的な言葉や映像、体験で、読書がこんなに楽しいということを見て、触れることは非常に貴重な経験になると思います。なるべく具体性を持って、計画をつくる側が読書体験等の経験を積んでいくことが必要ではないかと思います。

それでは、委員、お願いいたします。あまり直接、学校教育との関係が出ていませんが、その辺りもまた一つ視点としてお考えになって、コメントいただければと思います。よろしくお願いします。

○委員
　先ほど、佐川町の話が出ました。私もちょうど夏に女性校長会の研修で佐川町長のお話を伺いました。堀見町長は「先生方はどんな本を読んでいます」という話から、いろいろな本を紹介していただいて、私もその数冊を買って読ませていただきました。佐川町もその後、散策させていただいたときに、やはり図書館というより、私たちが読書に親しむためには、文化の町づくりが大事だろうと感じました。佐川町を見たときに、やはり箱物等の点と点がつながり、線となってつながっていくような取り組みを、上からではなく自然に地域の方、町がそういったことをしているところが素敵だなと感じたことを覚えています。恐らく、観光や交通の面、それからそこに住む人たちの縦、横のつながりということも意識したようなことをしているのではないかと思ったところです。
　学校図書館としましては、10 月の初めに土佐町で県の大会を行いました。私はちょうど修学旅行で行けなかったので、9 月にご挨拶だけ土佐町に伺わせていただきました。ご存知だと思いますが、土佐町は「読書の町」ということであげています。中身はいろいろな課題はあるのだろうなと思いますが、やはり学校が統合された分だけ、予算もあるのかもしれません。図書への財政は学校の中ではかなりありました。学校が見学会を行うためではなく、普段からいつ来てもいいように学校の取組について、玄関入ってからの掲示物から始まり、子どもたちの学習をしているところ、図書館の中、様々な所が子どもたちが安心して生活できる、自分たちで読みたい本が選べる、図書館に行きたくなる造りをしていました。また、地域の図書館、それからＮＰＯ法人で子どもたちの居場所として、地域の図書館の近所にそうした場所をつくっていることもいいなと思いました。そのときに、同行していた高知県内の様々な所の図書館整備に関わっている退職された先生は、「あぁ、○○町にもこのお金があれば、この財政があれば、○○町もどうにかなるのに」ということを言われており、高知県内の格差は大きくあるのだろうなと思いまいした。
　現在、学校で行っている図書館教育というものは、読書をして「この本が好き」ということも大事ですが、そこからどう表現するか。自分が調べたいことを調べたときに、それを誰かに伝える、何かの形に残すというコミュニケーションの中で、子どもたちが育っていくという流れが、学校教育の中にあります。そういう意味では、どのような本を選んでいくかということが大事です。
　しかし、学校現場は、働き方改革や教員不足ということがありまして、図書館司書が単独で配置されている学校はほとんどありません。図書館司書の司書免許を持っている先生も、学級担任として毎日疲弊していますので、学校の図書館の整備をする余裕がないのが現状です。高知市の場合は、図書支援員という方がいまして、これが大変役立っています。今、図書支援員がいなくなったら、学校の図書館は崩壊するだろうなというぐらい、支援員の立場が大きいのですが、学校の子どもたちに関わる部分はプラスアルファで、図書館整備の専門的なところでは、市町村の図書館と学校図書館のつながりが大切になるだろうと思われます。しかし、この多忙な中で、そのようなことを具体的にどうやって進めていくべきか考えているところです。また、お知恵が拝借できたら、お願いしたいと思っております。

○委員長
　その辺り、事務局の方でコメントございましたら。

○事務局
　学校図書の支援員さんを高知市ではかなり配置していると思うのですが、郡部ではなかなか少ないということで、配置しているところからお聞きしますと、支援員さんと市町村の図書館がうまく連携して、選書等をされているという事例をお伺いをしております。特に具体的なところは、何かありましたら、補完していただきたいのですけれども。

○事務局
　全校ではないですが南国市も小中学校に支援員を配置しておりまして、市立図書館の職員が研修を行ったり、授業で使われる本を毎月集められたりしていることを聞いています。しかし、小さな町村になりますとなかなか学校に人を配置することは難しいということで、図書館の職員が直接学校に入り活動しているところもいくつかあると聞いておりますので、学校と連携していくうえでも支援員・学校司書がいらっしゃるとスムーズに進むのではないかと思います。

○事務局
　学校の図書支援員は残念ながら、生涯学習課で配置することができないので、小中学校課の方で担当をされているところです。委員、その辺り何か。

○委員
　津野町では、図書というものを地域住民が幼児期から触れさせて、感性を豊かにすることを念頭に置いていることから、それに取り組む図書館の協議会メンバーや有識者が揃っています。そのため、各学校へ視察する際はそこの図書館も確認し、子どもにとってより良い環境をつくるために話し合ったりします。
　また、生涯学習課が進めている「コミュニティー」の中では、図書ボランティアが各学校全てに「図書プロジェクト」というものを置いています。そのプロジェクトのチームが、地域の人の力を借りて子どもたちが利用しやすい図書館の環境を整えています。
　各市町村で「コミュニティー」はほとんど実施されており、地域学校協働本部事業等が入っているので、それと兼ね合わせて、図書館プロジェクトがある市町村もあります。津野町では早めにそれを取り入れていたので、例えば机の配置や、調べ学習ができるブース、パソコンを使えるブースの設計図を書いて、自分たちで夏休み等の長期の休みに地域の人を集め、作業していきました。
　また、ある図書館では地域の人の力、保護者の力、子どもの力、といった三つ力が入りました。地域の人はキルティングで模様替えをしたり、壁の張り替えを行い、保護者と子どもは図書館の道具を塗り替えて、それをどこに配置するか考えてくれました。このような活動に参加していただくことで、「自分たちのつくった図書館」として地域の人も関わりやすくなりました。そうした意識の高まりが、他の教育分野にも重なることで、図書館のプロジェクトチームから波及していくこともあります。
　図書館の司書や支援員がいないという問題もありますが、それをカバーする何かをつくることは大きな一つの課題ではないかと思います。

○委員
　私の言い方が少しまずかったかもしれませんが、選書会等が必要だとか、手が足りないというのではなく、子どもたちにとって読みやすい本を並べるといった専門性は、支援員さんに求めるわけにはいかない力です。高知市の 47 校の全て小学校で形はできていますが、その力がある地域の図書館の方と、子どもたちが活用しやすい図書館にすることには、様々な課題があります。
　図書館を変えようとなると、教員が一致団結してそれをやる時間や、その意味を理解できるとかいう様々な課題がある中で、先陣を切って「こうしたらいいよ」と言える人がいないとできないこともあります。学校現場では、図書館教育として図書の本を使っていますが、恐らくそういうところが一番の喫緊の課題となっているのではないかと感じています。
　学校の課題だけを言いましたので、これは市町村の図書館と学校との連携ということで、学校に要望することはそういうことかということで言わせてもらいました。

○委員長
　図書館の運営自体であれば、オーテピアの職員の方々もたくさんおいでですから、ご相談いただければなと、おそらく館長もお思いだろうと思います。
　ただ、学校図書館というのは教育の中でのことですから、単なる一般の公立図書館の運営とは少し違った視点が必要だろうと思います。先ほど委員がおっしゃったコンサルティングのように、受けられる人材を県なら確保できているかというところがポイントでしょう。専門職という形でおいでになるとか、オーテピアでいろいろと研修されている、学校教育プラス図書館運営両方の研究される、そういうポストの方がおいでになれば、コンサルティングというようなことが可能かもしれません。
　結局、そういう面で一部局には収まらないという性格を持っているだろうと常々思っていまして、今のような話だと、やはり振興計画を目標達成するためには、事務局が頑張るだけでは駄目で、ほかの部局、要するに、最後は首長にいくわけですが、どう考えて、どういう支援をするかというところをきちんとしてもらわないとできないということは、事あるごとに訴えていく必要があるだろうと、お話をお伺いして思った次第です。では、委員お願いいたします。

○委員
　先ほどのお話を聞きながら、図書館は人と金だとしみじみ感じています。
　佐川町に関わっていることですが、先日、高知県教育委員会の委託事業の読書ボランティア講座で、日高村立図書館へ行きました。大変熱心に日高村の司書の方が丁寧にお答えくださりましたが、参加者の方が少ないということが分かり、近隣の佐川町の図書館にも電話しました。そこで「佐川町さんでチラシを配ったり声をかけてくれませんか」と伺ったら、すぐに「はい、分かりました。じゃあ、こちらから職員が行けるようにしたらいいですね」というように快いお返事をいただき、やはり佐川町は図書に対する熱が高いと思いました。また、その当日の参加者の方のお話をいろいろとお聞きしたのですが、皆さんそれぞれ参加してくださりボランティア講座を受けて、自分の生活をどこか変えたい、様々な連携をしたいと思っている方は、やはり地域でしっかりと活動されている方だと思いました。それから、嬉しかったことは年齢層がバラバラだったということです。年齢層が高いことが最近多いのですが、若いお母さんや保母さん、そういう方たちがたくさん参加してくださったので、いい講座を行うことができました。そのことから、核になる人の存在は大変大きなものだと思いました。
　それに関連し、先ほどから出ている学校での支援員さんが役割を分担されていて、それに対するフォローができたらと思っています。最初「図書館支援員」と聞いたときに奇異に思えたのです。一般的には「図書館支援員」ではなく「学校司書」というのです。文科省では、学校司書を配置しなければならないことで、２校に１校分の予算が付いていると思いますが、「学校司書」と「図書館支援員」で、どこが違うかというと「学校司書」を募集する場合には司書の資格が必要ですが、「図書館支援員」として募集するときには、資格の有無は問われないのです。また、積み重ねていくことが学校や図書館の現場でも重要だと思いますが、支援員は同じ学校にいることがなく、そこが弱い部分となっています。同様にお金を使うなら、同じ現場で３～５年程度いてくださる方が、そこの学校のことも分かり、地域の方ともつながっていくと思います。実際、高知市で読書ボランティア講座を開いたとき、支援員さんの方が何人か来てくださっていまして、その方たちが一生懸命やっていても、来年違う学校へ行ったりするので、なかなか地域の方ともつながりにくいということをおっしゃっていました。人と人とのつながりで図書館というのは大きく成長する要素があるので、ただ精神論だけではなく、そうしたハード面をしっかり整えていくということは、新しい成果に結びついていくのではないかと思いました。
　それから、小さな図書館では、なかなか他の図書館の様子が見えず、子どもが本当に読書が楽しいという実感を持っているかということが大きな課題であると思っています。やはり、本があるだけでは人は来ない、本当に図書館の本は楽しいんだよっていうことを教えていくような技術や気持ちがないと、なかなか集客は難しいと感じています。他の所がどうしているか、高知県だけではなく全国的にもどういう流れにあるかという情報が疎いので、それを体感すると「それならうちでもこんなことができるである」とか、「そこをちょっと聞いてみようとか」というような、職員さんやスタッフの方、それを支えてくれている地域の方たちの意識の改革、新しいムーブメントになるのではないかと思っています。

○委員長
　いかがでしょう。今のご意見に関して、事務局からありましたら。例えば支援員の配置っていう、所管といいますか。

○事務局
　所管は残念ながら、学校教育でやっておりますので、タッチできないところです。ご意見があったことは、所管課に伝えはいたします。

○委員長
　というところで、最初に申し上げたように、この振興計画は一部局に収まらないという形です。そのため、これは非常に言葉が悪いですが、今までついている予算が本当にその目的に使用されているかどうかというのは、チェックはできるんでしょうか。

○事務局
　実績報告書等をいただきますので、書面でということにはなりますが、チェックは一応できています。

また、指導主事等が学校訪問もしますので、その辺りの一定のチェックはかかっているかとは思います。おっしゃられるように毎年、人が動くとかいうことは、そこの地教委のお考えもあると思いますので、一概には言えませんが、投入しただけのお金が有効に使われているかどうかというところは議論があるところだと思います。

○委員長
　そうですね。あと、「読書の楽しさの実感」。これが伝わらないことには、支援員さんが根本のところでスタートに立てないのではないかと思います。やはり、そういうことを具体的に示してあげるかというところです。例えば、生涯学習課が肝いりとなって他県の活動されている方との合同の催しを共有をされるなど、そのようなところまで目を配っていただけたら計画の実質化ができるのではないでしょうか。
　図書館が中心になったコミュニティー活動の在り方というテーマであれば、もっといろいろな人が集まれますし、それこそ人を呼び込みたい自治体があるわけです。そういうところが主催して、例えば夏休みを利用して、読書で仕入れた自然に関する知識が高知だと実感できる。図鑑でしか見たことがない生き物や植物がここにいるというようなこと。また、地域と関連し、いわゆる読書を通じて知識を持つことの楽しさ。他文化のことには関心のない子どもたちと一緒に暮らしてみるという経験。そういうトータルなアイディアをどなたかがお持ちになって実践してみるという形です。そういう形だと協力者を求めやすいのかもしれない。なので、頭を柔らかく持って、この計画の実質化のために一体何が必要か、そういうこともお考えいただけたらなと思います。

○事務局
　直接のお答えではないのですが、恐らく地域や市町村の図書館によって、魅力の発信の仕方は違うと思います。私たちがそれに対して、一つだけ具体的なことをお示しするのでは、少し広がりがないかと思っています。そうすると、私たちができることはいうところで、資料１の緑の枠の取組のところで、各市町村に図書館の価値に気付いていただきたいということをどうするかとしたときに、この参考資料②の内容を各市町村さんにお伝えしていきたいという思いであります。そこには、ほとんどは他県ですが、図書館に魅力を付加して、実績につながっているという例を示しています。
　このような方向性で中身を深めていき、各市町村にお伝えすることで、市町村では「図書館、地域、歴史から考えて、こういうことができるんじゃないか」というような取組につながっていければなという願いでつくっているものです。お答えにはなっていないのですが、説明の補足をしたということになります。

○委員長
　いわゆる政治的、行政的な施策上、出てくる振興計画かもしれませんが、実施するものとしては、それに伴う付加的な価値、夢が語れる、将来が語れる、それから子どもの成長に役立つ、高齢者の心の平穏に役立つ、そういうものがないと、ただ単に計画があって予算が付いたから、何かをするというエビデンスづくりになってしまう。そこに対する配慮が今回、資料に表れているだろうと思います。

○委員
　県には地域支援企画員という制度があり、私も参加者の研修等を担当させていただいています。県から市町村に送り込み、そこで市町村の要望と県のサービス等をマッチングさせていくという仕組みだと思うのですが、彼らにあまり図書館のことがインプットできていないような気がしています。もちろん、教育委員会の流れと知事部局の流れは、いろいろと違いもあると思うのですが、せっかくの県と市町村のつなぎ目のところ、そのラインにも少しでもこうしたことが分かっていただいていると、先ほどから出ているようなコミュニティーや地域住民を巻き込むときに、教育委員会からの流れとは違うメニューが提供できたりするのではないかと思いました。

○事務局
　私どもも地域支援員が集まる会のときに知事部局の方からお声がけがあり、説明がありましたら時間がありますというお話しをいただいていまして、何度か計画や集落活動センターへの本の設置等、いろ

いろな図書やオーテピアのサービス計画を使い、できることをＰＲさせていただいたりもしております。また、ここについてはもう少し時間をいただいたり、広げていくような努力をしたいと思います。

○委員長
　ありがとうございました。それでは、委員お願いいたします。

○委員
　まず、読書環境の充実や推進といった視点で事業を継続していく場合に、やはり人材、人員の確保が必要不可欠な要素であると考えております。支援策にもいろいろとございますけれども、例えば、いの町では巡回バスの運転手を雇っていますが、以前それに対する補助制度がありましたが、今それはなくなっていますので、人員確保のための支援もご検討いただければと考えておりました。
　また、個別の市町村に向けた支援ということで、新たな整備計画が進んでいる図書館への支援ということがございました。今ある施設では、市町村によってかなり古くからある施設もあると思います。そこに対する何らかの支援とかというのは、この中に含まれるかどうかは、お聞きしたかったところです。
　それと、先ほどからお話もございましたけれども、他の図書館の状況が分からないことや、図書館協会はありますがまだ意見を出し合うようなところまではいっていないというお話もありました。やはり、他の図書館の状況等の情報共有は実施していかなければならないと思います。状況が分からないということも先ほど、ご意見がありましたので、県外の事例も含めて、そういう情報が共有できる、意見を出し合えるような場ができればと思っているところです。

○委員長
　いかがでしょうか。いわゆる建物から、それから人材から、活動内容の共有という根本的なところでございますけれども。

○事務局
　人員の確保につきましては、１人雇いますと１年間で何百万ということになってしまいますので、予算要求ということになると、そこの市町村だけになってしまうということがございますので、私どもとしては、どちらかというとソフト事業で支援していきたいと考えております。
　それと、施設の改修については、図書館振興計画の作成時に申し上げておりますが、市町村でお願いしたいということでございます。そこに、県としてはソフト事業で図書館を何とか活用していただけるような支援をしていきたいというのが基本的なスタンスでございます。

○事務局
　情報共有の場でしたら、公共図書館の場合、連絡協議会がありますので、そういった場でどういったことができるのかということになります。館長が出てきてそこで話をして、聞いて終わるという面もあると思いますので、図書館で仕事をしている職員の方だけでなく、図書館を所管している生涯学習課あるいは教育委員会の上の方に、そういった情報がきちんと届くよう考えていく必要があると、ご意見をお聞ききしていて思いました。

○委員長
　委員のお話を伺いまして、例えば図書館での活動をいろいろな形で宣伝・広報していただき、他の図書館や県の方にも見て、評価していただける発信の仕方や、県の広報に各市町村の図書館活動の特徴や目標を載せる形で紹介する。また、お互いのホームページを見れば、毎月の活動やこれからの事業計画がわかるように発信するための支援をすると、より情報共有がしやすくなるのではではないでしょうか。
　また、情報のネットワークを強化していくときに、ノウハウや基本的な方向性という点でオーテピアが中心になって働きかけて図書館の活動をリンクし、大きな活動にする。それに対して、具体的な活動をしている人に要るサジェスチョンが与えられる方向性があっていいのではないかと思います。
　委員のお話を伺い、やっていることを水増しするのではなく、「こんなことをやっています」と素直に報告するということが大事だと思います。やはり、そういう世界をつくろうという方向を具体例として

考えていくことから、生涯学習課の大きなビジョンに入るべきでしょう。

○事務局
　先ほどのＰＲですが、来年の１月 18 日に当課が主催します社会教育の実践交流会がございます。昨年、県立大学の学生も発表いただきましたが、今年度は図書館の方にも発表していただこうということで、津野町の図書館に発表していただきます。今まで、社会教育の実践をしている方の地域おこしといった発表が多かったのですが、社会教育を広く捉えてる方向を模索しておりますので、図書館のＰＲもお願いしたところでございます。そういったところで、いの町の取組も今後、発表をお願いできたらと思っております。

○委員長
　よろしくお願いいたします。委員、次にお願いいたします。

○委員
　素晴らしい振興策の案ができている。資料１の緑の部分の市町村における図書館の価値・施策を高めるためには、首長、首長部局が鍵となっている。新聞等で見ると、この人たちは必ず「人材育成」を掲げている。その人材育成に図書館が関われるのですが、首長がどういう気持ちで図書館の必要性を受け入れることができるかが重要です。
　首長部局と教育委員会への働きかけの方法については、いろいろとあろうかと思いますが、その一つは、毎日見る新聞です。行政の職員は皆、隅々まで新聞を見ており、そこで市町村図書館のそれぞれの良さや高知県の図書館教育をアピールできれば良いと思います。
　また、新聞も含め、何をしたらこの人たちは動くんだという視点も重要であり、その機会としては市町村と町村、別々に首長部会があります。そういうところで、図書館における人材育成との関わりを実践発表によって、アピールすることも戦略の一つかと思いました。
　それから、赤の部分の「個別の市町村に向けた支援」。これは、市町村だけではやりたくてもできないという諸事情がたくさんあります。その中で、図書館というものが大きな力を発揮させられるようなものになればいいと思いますが、「一律にこうしなくては」では絶対に無理です。やはり、図書というものを各市町村でどれぐらいのポジションに置いているのか、そこがありますので、さらに一歩上を狙う、図書館教育に少しでも意欲を持ってもらえるような目標が持てればいいと思います。また、その目標によって違ってくると思いますが、町の中で図書館教育に少し光が強まるような良い取組を評価することや市町村の工夫した取組というのを募集することで、さらに市町村の図書館のポジションがアップしていきます。
　それと、オーテピア図書館長が本日ここにおいでますが、市町村が分からないことや図書館がしたいこと等をざっくばらんに来て助言をいただけるような、オーテピアの職員との関係づくりによって、図書館の人材育成にもつながるのではないかと考えています。例えば自分がやりたいことで迷っているとき、施策について話を聞いてくれたり、示唆していただける担当の人がいれば、深い連携もできるという考えは持っています。

○委員長
　ありがとうございました。事務局から、コメントどうでしょうか。

○事務局
　まず、首長会等で時間をもらうということについて、一度、エントリーはさせていただいたことがありますが、優先順位からすると低くて、時間が取れないということがございました。これは諦めずに毎回エントリーはしていきたいと思っています。
　それと、首長会ではないですが、市町村の財政担当者会議というものが今月ございます。その会に５分だけですが、お時間をいただきましたので、財政担当の方々にこの図書館の振興計画や図書館が有効であるということ。それと、総合戦略を各市町村がつくっていると思いますので、ぜひそこに図書館を位置づけてくださいということも、お願いしようと考えております。

また、予算のことでございますが、資料の赤の枠③の所で、財政支援の検討というところがあります。現在、コンペ方式のような形で市町村の方からご提案をいただいたものに補助金等の支援を考えたいなという方向で検討しております。

○委員長
それと、コンサル管理関係では。

○事務局
県立図書館の機能に市町村立図書館の支援というものがあり、尾形チーフのところに支援協力のチームがあります。通常は図書館の館長も含めた職員に、支援協力のチームが協力もさせてもらっていますが、さらにその上、例えば所管する生涯学習課としてどうするか、教育委員会としてどうするかとかいったところになると、この支援協力だけではなく、ほかの生涯学習支援が入る形となってお話ができるとは思いますが、そういった仕組みのようなものは、今できてはいないです。
今年度当初から生涯学習課と一緒に各教育委員会の方も回らせていただいて、いろいろとお話もさせていただいておりますが、例えば市町村の教育長が図書館を本腰入れてやってみようかと思ったときに、県立図書館に相談するには、どこに相談すればいいかというところの仕組みまでは、まだできていないので、その辺りをどうするか検討したいとは思います。
基本的には、こちらの方で市町村を回っているので、そのときにお話をいただけたら、また次のステップに上げていくという形にできたらとは思います。

○委員長
基本的には、先ほど事務局がおっしゃったとおりですが、具体的な各関係当局や関係者への働きかけというのは、かなり具体化しておく必要があると思います。その前にも、具体的にこういうところで計画を説明する、こういうところでチャンスを得るようにするという、具体的な話があればと思うのですが、いかがでしょう。
まず、この計画を知ってもらうということが必要ですし、計画の認知度を上げるということと、県のいろいろな振興計画や施策の上で、いわゆる順序のランキングを上げてもらうという努力が必要だと思います。そのために、具体的に何かこういうところで時間をもらうというような計画、そこを伺えればと思います。

○事務局
それぞれの地教委に教育事務所ごとに、地教連の会議がございます。そこに教育長さんがお集まりになって、いろいろな協議をされる場がありますので、そこには案内が必ず私どもにも来ます。まずはそこに行って、来年度の財政支援が大体固まりましたら、回る予定をしておりますので、そこでＰＲさせていただきたいというのが一つございます。
それと、やはり図書館の計画が具体的になっている市町村には、この振興策を持って直接、その市町村に出向いて説明をするというのも一つございますので、そこは県立図書館と一緒になって、市町村訪問を今後も続けてまいります。その際に、もし首長さんが会っていただけるということであれば、お話の時間も取っていただいて、ＰＲさせていただきたい、そのように考えています。

○委員長
各市町村の方に対する働きかけですが、例えば議会関係者等に対する、認知度が本当に上がっているのかどうかということ、それから知事部局との関係もあるが、どの程度の位置付けの施策なのかの確認と周知、そういった働きかけです。

○事務局
今年度、教育大綱が改訂されます。来年度以降の教育大綱ということで、そこの大綱の中に、生涯学び続ける環境づくりという生涯学習の柱が１本立っておりますので、そこにオーテピアの位置付け、それと読書、図書館振興というところを位置付ける予定をしておりますので、そこにしっかりと位置付けて

取り組んでいきます。
　その大綱の説明会が今後開かれますので、そういったところでも、メインはやはり学校教育というところになってしまいますが、生涯学習もしっかりＰＲしていきます。

○委員長
　分かりました。それでは、私の感想を述べさせていただきたいと思います。物の考え方として、最初から言っているように、とにかく県全体がどういう計画、見通しを持っているかという、はっきりしたものが大事だと思います。もちろん、より小さいものからのビルドアップは必要ですが、パーツや部品という意味では、全体とユニットとの関連で決まるものですから、一方だけ走っても駄目で、生涯学習課の全体構想としてどのようなものがあるか、ある程度固めていく。
　それとの関係で、この振興計画も出てきますし、全体の方向性はこっちを向くべきだと考え方を念頭において、いろいろと決めていただきたい。考えなければならないことが増えるわけですけれども、振興計画のような場合はそういうものだろうと思います。ですから、必ずしも下からの意見を待つだけではなく、もちろん上からのトップダウンだけでもない双方向型で、より有機的、ダイナミック型での活動計画や支援であってほしいと思います。
　それから、コンペ型というものが出ていますが、選ばれる方は「何で」という疑問が残ってくる可能性があります。要するに、広い意味での評価基準として合意されたものをつくり上げていただきたいということです。前回も申し上げましたけれども、振興計画や図書館整備が進んでいるところは、ユニークな新しいプランを出しやすい傾向があると思います。ところが、スタートしたばかりのところでは、初歩的なことを計画として挙げて、予算を付けてくださいというお願いをするしかない。そのときに、根拠を持って選ぶというところで、説得力を持った基準が立てられるかどうかです。そうしないと「不公平ではないか」、「何か裏があるんだろう」というような、いわゆる恣意的な選抜ではないかということが出てきます。つまり、何かを選ぶというのは、必ずそうした面がありますので、公開できる基準の合意に達しておくことが求められることになると思います。それをしないと「どこで何が決まったか分からないけど、あるところには金がいくね」という話になってしまってまずいと思う。それは、金額の額の問題ではなくて、何かを募集する以上、評価基準は公開・公表することは大事だと思います。
　それから、この会議で度々、申し上げましたけれども、いわゆるこの振興活動自体は、決して一つの部局に収まるものではなく、他部局といった様々な関係者とうまく連携していく必要がある。これには、人材の確保や情報共有が関わってきますが、「他の部局だ」とか「うちの仕事じゃない」と言う方が必ず出てくるものです。そのときに一番大事なことは、例えばオーテピア高知図書館がいい例で、「オーテピアは市と県という別組織でさえちゃんと協力してうまくやっているじゃないか。そんなのお前のところの仕事だ、うちは関係ないというようなことを言う問題じゃないだろ」というぐらいの覚悟と意気込みがないと、協力を求めることができないと思います。要するに「この振興計画を推進しない方に回るなんていうのは、あなたの方が問題ですよ」という説得をうまくしていくとことが大事で、認知度が上がれば協力する人も増えるだろうと思っています。
　いわゆる部局横断型の業務にならざるを得ないのですが、当然のことながら、首長の集まりでも訴え、それから広報誌、議会、委員会、マスコミ等々でこの計画の推進の認知度を上げる。この努力だけは、できるだけすべきだろうと考えています。もちろん、どのツボを押さえた方がいいかという、具体的なノウハウはあるでしょうが、そこをまず検討していく必要があると思います。
　それから、この頃災害続きで避難所暮らしというような話が出てますが、例えばそのときに図書があるというのはどれだけ大きなことかというのは、原発事故のときから盛んに言われていることで、そういうことも含みにおいて、図書館の位置付けを考える。場合によっては、図書館スペースが避難所になるということだって有り得ます。単なる建物ではなく、そのときに、図書館へみんなで行こうという住民意識があれば大きいし、子どもは図書館へ行けばいいだろうという安心感があるとか、そうしたところまで含めた総合型の振興計画であり、物の考え方、精神が必要ではないかと思っています。実行するには簡単で、要するにお人よしになって、みんなのために働こうという意識を持たないと駄目だろうということですが、その辺りはまたよろしくお願いいたします。

○事務局
　コンペ方式での評価ということをご助言いただきましたので、評価基準はオープンにして実施していきたいと思います。県のプロポーザルも基本的には評価基準をオープンにして行っておりますので、それに従った形になろうかと考えております。
　それと、他部局との連携ですが、ここも中山間や、総合戦略を担当している課とは連携しながら、研修会等あれば時間をいただいてＰＲしていき、まち・ひと・しごと総合戦略の中にも一応、手は挙げてはおります。

○事務局
　オーテピアの施設のことでいうと、ここは津波避難ビルで、一時避難場所という形にはなります。備蓄倉庫も３日分、3,000 人分、食糧と水の備蓄はしています。

○委員長
　他の市町村図書館もそういうことになっているんですか。

○事務局
　避難所になっている所はありますし、公民館図書室は、公民館自体が避難所になっていたりするので、高知市内の分館でも、公民館の中の別室、図書室では、先日の大雨で緊急避難速報が出て、避難所に指定されるとその時点で図書館としては避難所になります。そういった形で、避難所になっているところはあります。

○委員長
　ありがとうございました。あと、参考資料②にあります下の成功例がどうしてこんなに小さくなっているのか。具体的にこんな大きな成果があったと、もっと宣伝してもいいんじゃないか。また、このように注意を引いてもいいような事例が多く挙がっていると、首長さんが興味を示すとしたらしたらこちらの方かもしれないと思いました。
　全体的に言えますが、認知度を上げたり、みんなに受け入れてもらうというときに、こちら側の資料を提供する場合、とにかく分かりやすい、読みやすいもので、読んでみようかという気になるものをつくっていただきたい。このカラーの資料は、非常に分かりやすくできていますので、その辺りを心がけて、できる限り多くの部署、関係者、希望者にお渡しして、まず理解をいただく。理解していただいた上で、何らかの形で協力を得られるような、そういう提案ができるような形になればと思います。
　たくさんの分厚い資料を持って、これ読んでくださいっていう形のお願いは、今は無意味だろうと思います。読んでみようという気を起こさせるような、そういうレイアウトもお考えいただけたらなと思います。

○委員
　今のお話を聞いていて、広告代理店にいるときに、いろいろな企業のロビー活動の戦略等を立てていたのですが、何かそれに近いなという気がしていています。その感覚で考えると、図書館というものをもっと取り入れてもらう、予算を付けてもらうために、「これ票取れますよ」というところまで突っ込まなければならないのではないかと思っています。「お宅の政策の中でこういうところにこの図書館振興を取り込むと、総合戦略もうまくいくし、来年も通りますよ」というように、この図書館がいつ立ち上がるという表とともに、34 市町村の首長の選挙がいつあるかも見ておかなければならないと思いました。

○委員長
　そうだろうと思います。

○委員
　それと同時に「あなたがもし、それを取り入れないのであれば、次の立候補で立つ別の候補にこの資料を渡しちゃいますよ」と、そういった戦略を僕はつくっていました。なので、それぐらい地域の中で図書

館というものを売り込むためにはやるという意味で、事例も載っているこの資料は重要だと思っています。民間ではそれぐらいの圧力をかけるので、そうした力学もあるかと思ったので、念のため付け加えました。

○委員長
　ありがとうございます。かなり生臭い話だとは思いますが、それだけの計画を我々は立てたんだと。どうして評価されないんだというぐらいのプライドと覚悟が要るだろうというお話として受け取っていただければ、それほど生臭くはなりません。それから、実際にアイディアを欲しがっている人たちは、かなりいるのではないかと思います。
　それでは、たくさんの意見をいただきましてありがとうございました。時間になりましたので、協議はここまでといたします。また、今日出されました意見につきましては、事務局の方で整理をお願いをしておきます。どうもありがとうございました。

○事務局
　本日は長時間にわたりまして、ご協議いただきまして、ありがとうございました。いただきましたご意見を来年度の予算に向けて反映させて、何とか金額の方も確保したいと考えております。この市町村図書館等振興協議会につきましては、今回２回目で今年度終わりになります。本当にいろいろなご意見を頂戴しまして、ありがとうございました。
　今年度、最後ではありますが、来年度に１回、この予算の状況や進捗の状況等をお知らせをする会を開かせていただく予定をしております。進捗管理につきましては、図書館振興計画の方で２年に１回ということでございますので、来年がその年ということでございます。
　本日は本当にありがとうございました。今後ともどうかよろしくお願いいたします。